

# じゅしゅう

## 浄覚寺 開基三百五十年記念法要 第十世住職継職奉告法要 厳修

平成三十一年四月二十日・二十一日、両日ともこれ以上ない晴天の中、初日は「報恩講法要」、二日目には浄覚寺の「開基三百五十年記念法要」と「第十世住職継職奉告法要」をおつとめさせていただきました。

二日目の記念法要に先立ち、奏楽員による雅楽の演奏の中、四十八名の子どもたち、保護



稚児行列の様子

者やお坊さまを合わせると総勢二百人に迫る皆さまと一緒に、稚児行列で花を添えていただきました。

そして、ご法要は浄土真宗の要の經典である仏説無量寿經をもとに作られた『無量寿經作法』を中心として、阿弥陀さまの周りを花片を模した華葩を撒き散らす散華をしながら、時計回りに回る行道と



記念法要(無量寿經作法)

創刊号  
(通算341号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

いう作法を行いました。散華も行道も、お敬いする仏さまのお徳を讃える作法ですが、特に行道は一般寺院の日常で使うことはまずありません。継職法要という、まさに一生に一度しか用いない作法でしたので、本当に感慨深いものでした。

また、それ以外にもご本山より「お祝いのごとば」の伝達をいただいたり、前任職と新任職による表白(表敬告白)がありました。前任職は開基三百五十年への思いと住職退任にあたり感謝の念を告白し、新任職は歴代の住職や門信徒への感謝と住職就任にあたり抱負を述べる表白となりました。(裏面でご紹介します。)

記念法要に引き続きは、ご本山で長く仏教婦人会連盟の講師を務めておられた、大分県正善寺の藤井邦麿先生に



当日諸役の皆さまと

よる記念法話。また、記念品の贈呈や御礼の挨拶をさせていただいた記念式典があり、二日間の法要が幕を閉じました。法要当日はハプニングもありましたが、無事につとめられたことに安堵しております。

総代さまや法要委員会の皆さまには一年以上も前から準備をお願いしてきました。また、多くの方々からのご協力もいただきました。この場を借りて、深く御礼を申し上げます。皆さまの思いを支えとして、浄覚寺の護持発展のため、またご法義繁盛のために、住職として尽力してまいります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。合掌

新しい時代が  
始まる

変わっていく

中にも

変わらない

ものがある

それが

南無阿弥陀佛

記念法要のパンフレットに記載できなかった新旧住職の  
表白をご紹介します。今号は前住職です。

敬つて、大慈大悲の阿弥陀如来の御前に申し上げます。  
本日ここに、恭しく尊前を荘厳し、懇ろに経典を誦読して、吉富山浄覚寺開基三百五十年記念法要、並びに、第十世住職継職奉告法要をおつとめいたします。  
思えば、当山浄覚寺は今日より遡ること三百五十年前、寛文九年に浄覚寺の寺号を本山本願寺より下附されました。  
爾来、幾多の時代を乗り越えて歴代住職、並びに、多くの門信徒と共に念仏の根本道場として、ご法義が相續されてまいりました。  
顧みますれば、大坂の地、とりわけこの長原の地はお念仏の土徳に彩られ、支えられてきた郡であります。  
当山に浄土真宗の法灯が掲げられてより三百五十年の間、歴代の住職は宗祖親鸞聖人のみ教えを仰ぎ、怠ることなく正法宣布に専念し、門徒同行もよくお念仏

# 仏教語辞典



昨年末に刊行された『気になる仏教語辞典』です。  
イラストと一緒に仏教用語をわかりやすく解説してありますので、毎号一つずつご紹介していきます。著者の麻田弘潤氏は新住職の同級生。消しゴムはんこ作りを楽しんで貰いながら、体験的に仏教思想を学ぶことができるワークショップを全国各地で行っています。

『気になる仏教語辞典』  
著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

の心を汲みながら、共に協力してご法義の繁盛に努めてまいりました。  
このような念仏の声がうねりとなり、開法の道場としていよいよよめることとなりました。これもひとえに仏祖、並びに、宗祖親鸞聖人のご苦勞の賜であります。  
本日ここに、第九世住職の退任にあたり、就任より三十有余年、仏祖のご照覧のもと門信徒、並びに、有縁の方々自身に余るお育てを賜りながら、住職の任を終えられますことは存外の喜びであります。  
この上は、新しい時代に向けて第十世新住職のもと、寺族・門信徒・有縁の方々と共に手を携え、念仏往生の道を歩まれんことを、  
吉富山 浄覚寺 第九世住職 釋法乗  
謹んで申し上げます。

## 行事案内

日時・五月十一日(土) 十二時より  
行事・蓮如忌法要 参拝  
場所・久宝寺御坊 顕証寺  
集合・午前十一時に戸イオン横の  
タクシー乗り場にご集合ください  
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

## 編集後記

住職が変わり、新製『じゅこう』をお届けします。  
記念法要の疲れと後片付け、慣れない新聞作りと、いきなり言い訳ばかりになりますが、発刊が遅くなりましたことお許しください。  
四月二十日、二十一日の記念法要では皆さまに大変お世話になりました。たくさんの方に協力をお願いしました。また、「他人事ではないから」との法要委員会の皆さまの思いを支えとして無事につとめることができました。重ねて感謝申し上げます。  
新しい令和の時代となりました。時代が変わっても変わらないものがあります。それが親鸞さまの残してくださった念仏往生のみ教えです。生きる拠り処となります。ただ、伝え方は時代に応じて変わらなければなりません。少しずつ新しいことに挑戦していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。  
(釋法道)